

日本の地域社会から学ぶ地域ポテンシャルの発掘と活用の可能性

—愛媛県西条市フィールドキャンパス構想に向けて—

力石 晴子

キーワード： 地域ポテンシャル、資源活用、西条市フィールドキャンパス構想

1. 背景と目的

現在、日本の地域社会の現状を言い表すとき、過疎化、高齢化、後継者不足による地域産業の衰退、などの暗い言葉が並ぶ。一方で、丁寧に地域の実態を紐解くと、そこから学ぶべきことは実に多く、地域社会が持つ貴重な可能性に触れることができる。本研究の目的は、愛媛県西条市を対象地とし、地域の活動やその土地に暮らす人々から学び、地域ポテンシャルの発掘とその活用方法を検証し、日本の地域社会が有する可能性を探り活かす事例の一つとして「西条市フィールドキャンパス構想」を形作ることにある。

2. 地域ポテンシャルとは

地域ポテンシャルとはその地域に潜在する資源や知識・技術であり、気候、生態環境、景観、伝統、生活文化、産業、そしてそれに関わる人々や人々の中に蓄積された知恵のことを指す。一方これらは、日常の中で当たり前のこととなっているため、地域に住む人々にとっては認識されにくいものである。

3. 西条市の現状把握とポテンシャルの発掘

資料収集、ワークショップ、ヒアリング、観察を通して地域ポテンシャルを整理し、山から海、都市部と限界集落、工業や農業、人材、自然学校や棚田の保全活動など様々な分野において、ひとつの地域に多様性が凝縮されていることが確認できた(図1)。また、これらが日常生活に埋もれ顕在化しにくい面や、一つの項目が派生させる多面的機能も観察されることから、丁寧な発掘が必要となることがわかった。課題としては、情報管理の分野が未整備であること、行政主導の「問題発掘・解決型」の認識や取り組みが主流であり地域住民からの汲み上げにかけることなどが浮き上がった。

分類	まつり・伝統・文化	自然環境	ランドスケープ	食と農
項目	歴史・風土	温暖な気候	海から山まで 30km	美味しい農産物
	地域住民を結び付けている	多様な自然・山森谷川里海	大きな港と後背地の平野	多様な農作物
	祭礼・伝統芸能			多様な農業形態
	西条祭り	石鎚山	都市と村落がある	高い食料自給率
	郷土料理	森林資源	石鎚・高縄山脈	休耕地・休耕地
	産業遺産	広い干潟	棚田が美しい	産地直売所
山間部の生活文化	活断層の地形と地質	田園風景・広い水田	郷土料理	
分類	人材	技術	水	活動・その他
項目	行政の人材	企業の技術者が多い	うちめぎ(自噴水)	野球が強い西条高校
	人情、人の温かさ、親切さ	高い技術力の民間企業	地下水	千町の棚田保全活動
	専門高校	木造伝統工法やつお	豊富な水資源	西条自然学校
	教育熱心な土地柄	OB 人材の知識と技術	湧水がきれい	産業バランスの良さ

図1：西条市の地域ポテンシャル

4. フィールドキャンパス構想案

以上から、技術やモノを外部から投入するのではなく、西条市をキャンパスに見立てこれら多様なポテンシャルを活用する構想のフローを考察した(図2)。構想概念は右図の通りである。例えば、山間部の生活文化の体験や環境・理科教育に関する研修を考えると、発掘された地域人材の活用と文化体験といった取り組みを通して更なるポテンシャルの発掘が行われ、これらの研修で得られた情報を蓄積・還元する。そして、新規事業展開-例えば地域産品づくり-へとつながり、そのプロセスが地域に残る包括的な取り組みとなる。学びあう、考える、実践する、フィードバックするという流れで、実際のキャンパスを持たないからこそ様々な分野への応用と地域外部者・内部者の参加が可能となり、地域社会からの学びの実践の場となる。

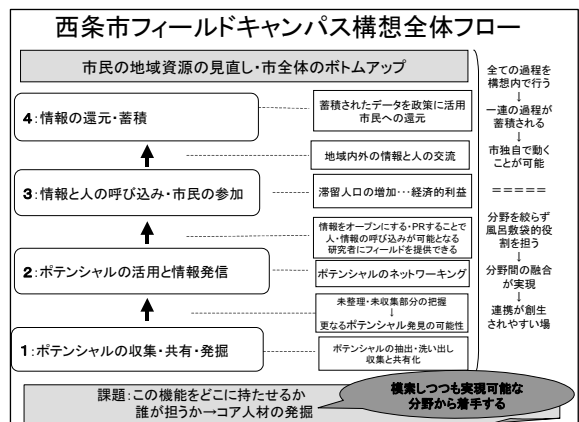


図2：フィールドキャンパス構想フロー図